

Title	<資料紹介> 1953年11月 関西女子学生大会
Author(s)	河西, 秀哉
Citation	京都大学大学文書館研究紀要 (2008), 6: 99-121
Issue Date	2008-01-31
URL	https://doi.org/10.14989/68875
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

資料紹介

1953年11月 関西女子学生大会

河西 秀哉†

[解説]

1 資料の概要について

本稿で紹介する資料は、京都大学大学文書館所蔵の「関西女子学生大会」パンフレットである。本資料は、東京大学史史料室の谷本宗生氏が古書店で購入し、京都大学大学文書館に寄贈くださったものであり、谷本氏には記して感謝したい。

形態はB5判ガリ版刷りで34p（表紙含む、すべて手書き）。1953（昭和28）年11月6・7日に京都大学と同志社大学で開催された関西女子学生大会での議事内容を詳細に記録しており、当時の女子学生の思想・実態を知る上で貴重な資料と言える。

なお、本資料に所収の「関西女子学生大会宣言（案）」と「全日本女子学生の会第一回全国大会へのよびかけ」は『資料 戦後学生運動』3（三一書房、1969年、230～234p）にも翻刻されている（収録されたものについては「関西女子学生大会宣言」と、採択されて「(案)」が取れた文書）。

2 時代背景

関西女子学生大会が開催された1953年は、前年に講和条約が発効して独立を果たし、吉田茂内閣下においていわゆる「逆コース」が進展していた時期であった。7月に破壊活動防止法が施行さ

れ、8月に保安庁が発足して警察予備隊が保安隊に改組されるなど、治安体制の強化と防衛力の増強は人々に戦前の社会や国家を想起させた⁽¹⁾。

京大では1951年11月の天皇事件⁽²⁾に伴って、全学的な学生の自治団体である同学会は解散されており、各学部自治会によって自治会連合が結成されるも、大学の公認が得られなかったために全学的な自治組織としては機能していなかった⁽³⁾。1953年になると大学当局も全学的な自治組織の必要性を認めるようになり、同学会再建が具体化し始める⁽⁴⁾。6月9日からは同学会再建の成否を決める全学投票が行われ、4500名の賛成を得て、27日に正式に再建された⁽⁵⁾。再建同学会は全日本学生自治会総連合（全学連）に加盟し、積極的にその運動に関わっていった。9月には京都大学楽友会館と同志社大学で第三回全学連中央委員会が開かれ、同学会委員長であった米田豊昭が全学連委員長に選出されている。この委員会では、「逆コース」の流れがアメリカと結びついて大学の植民地化を目指しているとの現状認識の下、「学園復興」を求める運動を展開させることが決議された。それに基づき、11月に全日本学園復興会議が開催され、その期間中にデモ隊と警官隊が衝突し、いわゆる「荒神橋事件」が起こった⁽⁶⁾。関西女子学生大会は、この学園復興会議の「女子部門

† 京都大学大学文書館助教

としての準備会」をも兼ねていたようである⁽⁷⁾。そのためか、資料中にも学園復興会議に関する事項が出てくる。

3 資料の内容について

京大に正規の学生として初めて女性が入学したのは、旧制下の1946年度である（入学者1505名中17名、1.1%）。1953年当時の在学者を見ると、旧制の学生472名中女性は4名（0.8%）、新制の学生6378名中女性は154名（2.4%）であり、その数は決して多くはなかった。資料中にも散見されるように、女性が大学に進学する事に対して、1953年当時の社会のまなざしは未だ厳しかった。下宿などは男子学生よりも決まらなかったようであり⁽⁸⁾、大学内においても女子学生用の施設建設は遅れていた。こうした現状を受け、京大の女子学生30名は1951年6月16日に集まり、女子学生懇親会という親睦会を組織していくことを決定する⁽⁹⁾。この懇親会で要求されたのが、女子寮の建設であった。その動きは1953年5月ごろから盛んとなっており⁽¹⁰⁾、関西女子学生大会の時期とも重なる。女子寮建設は京大に限らず、各大学で共通の問題であり、大会の重要な議題となっていた。

大会ではまた、女子学生の就職への不安が大きな議題となっている。文部省が1953年11月に調査した結果によれば、来春大学卒業予定者のうち約8割が就職希望者で、男子国立が25.7%、男子私立が24.6%の就職決定率なのに対し、女子4年生大学学生は7%、女子短期大学生は10.5%で、当時の女子学生の就職が大変厳しかったことがわかる⁽¹¹⁾。これは、女性の社会進出が未だに受け入れられない土壌が存在していたからである。結婚して子どもを産む時点で退職するということが当時通例化していたために、初めから女性を雇用しないというケースが多々あり、それに対する女子学生の憂慮をうかがうことができる。

大会では、こうした女子学生への差別的な待遇、女子寮などの施設の問題、就職問題などの女性固有の問題の他、前述のような「逆コース」に対する批判など、様々な社会問題についても議論が展開されている。ここで特に注目したいのが、選挙権問題である。自治庁は1953年6月、下宿などを行っている学生の住所は、居住の事実によって居住地とするのではなく、生活の本拠がどこにあるのかを調査して決定すべきとして、仕送りを受けて休暇に帰省する郷里が住所であるとの指示を選挙管理委員会などに通達した。これによれば、学生は下宿のある場所で選挙に投票するのではなく、郷里に帰ってそれをする必要がある。しかしそのために郷里へ帰省する費用を賄えない学生にとって、その措置は選挙権を剥奪されることを意味した。そこで学生らはこうした動きに対し、反対運動を展開したのである。

関西女子学生大会は一般的にも注目され、『京都新聞』は「これまでに見られなかった政治意識の高さが注目された」と紹介している⁽¹²⁾。また女子学生大会は関西だけではなく、全国的にも広がり、関東では11月22・23日に東京都女子学生の大会が開催されている⁽¹³⁾。東京の大会は27校約120名の参加者であり、約250名の参加者のあった関西女子学生大会がいかにも大規模な大会であったかがわかる。こうした地域の女子学生大会を踏まえ、12月2・3・4日に赤坂公会堂で全日本女子学生大会が開催された。参加者は72校338名で、自治活動・就職難などの問題が話し合われ、女子学生の会の結成が確認されている⁽¹⁴⁾。この大会の中心として活躍した早稲田大学の水上和子（本資料中で、関西女子学生大会の感想を寄せている）は「女子学生が学校に学ぶ意義が、まだしつかりとつかまれていないのです……この大会を機会に女子学生がもっと発言するようになればいけないとも考えています」と語っている⁽¹⁵⁾。

以上からもわかるように、本資料は、当該期の

学生運動の展開を検討する上でも興味深い資料であるとともに、女子学生の置かれた環境や考え方を知る上でも、その生の声が丁寧に描かれているために重要な資料と考えられる。女子学生の観点を踏まえた学生運動研究、女子学生の視点をも含んだ女性史研究において、本資料が利用されることを望みたい。

本資料の翻刻にあたっては原則として原文のとおり表記したが、次の事項は例外とした。

- ①漢字は常用漢字に直した。
- ②文字が間違っていると推定される個所については「ママ」を付すべきではあるが、本資料はそれがあまりに多数となるため、原文のまま表記して付していない。
- ③【 】内は、翻刻者による注である。判読不明な文字については□で示した。

[註]

- (1) この時期の社会背景については、松尾尊兌『日本の歴史 21 国際国家への出発』（集英社、1993年、181～198ページ）などを参照のこと。
- (2) 天皇事件については、河西秀哉「1950年代初頭における象徴天皇像の相剋—京都大学天皇事件の検討を通じて—」（『日本史研究』502号、2004年）、同「敗戦後における学生運動と京大天皇事件—『自治』と『理性』というキーワードから—」（『京都大学大学文書館研究紀要』第5号、2007年）などを参照のこと。

- (3) 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』総説編（1998年、550ページ）。
- (4) 『学園新聞』1953年1月26日。
- (5) 『学園新聞』1953年6月15日、7月6日、前掲『京都大学百年史』総説編（592～593ページ）、京都大学七十年史編集委員会編『京都大学七十年史』（1967年、1207ページ）。
- (6) 前掲『京都大学百年史』総説編（593ページ）、京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』資料編二（2000年、575ページ）。
- (7) 『学園新聞』1953年11月2日。
- (8) 「聞き取り記録 川合一良氏・葉子氏『同学会・原爆展・女子学生懇親会について』（『京都大学大学文書館研究紀要』第5号、2007年、67～69ページ）。
- (9) 『学園新聞』1951年7月1日。
- (10) 『学園新聞』1953年5月25日。前掲「聞き取り記録 川合一良氏・葉子氏『同学会・原爆展・女子学生懇親会について』（西山伸解説、61ページ）。なお、女子寮は翌年に吉田山西麓にあった橋本記念館を寮として利用することが決定された。
- (11) 『朝日新聞』1953年12月26日夕刊。
- (12) 『京都新聞』1953年11月7日夕刊。『京都新聞』は翌8日の紙面でもこの大会について、その討論内容などを報じている。
- (13) 『東京大学学生新聞』1953年11月30日、『早稲田大学新聞』1953年11月18日。
- (14) 『早稲田大学新聞』1953年12月9・16日合併号。
- (15) 『朝日新聞』1953年12月3日夕刊。『朝日新聞』はこの女子学生大会を「悩みは主婦と変わらず」「まだ低い社会的地位」との見出しを掲げて、大きく報じている。

[資料]

全日本女子学生の会
第一回全国大会

関西女子学生大会
1953.11.6,7日 於京都

《唇に歌を、心に太陽を、学園に自由を》

《よりよき未来の為に力を合せよう！》

【深尾須磨子の詩あり】

大会日程

11.6.10 am	挨拶 大会準備会
於	講演 末川 博氏
[京大楽友会館]	議長団運営委選出
	開会宣言
	メッセージ
1.pm	経過報告 大会準備会
	一般報告
	議事進行方法決定
	質疑討議問題提起
4 pm	第一日議事終了
	晩さん会 (京大中央食堂)
	映画団体鑑賞会
	“若き親衛隊” (京大西部講堂)
11.7.9 am	分科会の持ち方決定
12 am	分科会
3pm	分科会終了再び総会
	各分科会の報告総結討論
	決議文採択発表
9pm	終了

於 [同志社大]

…… (中略) ……

【参加校 () 内は参加者数

(京都) 京都大学 (16)、洛陽高校 (3)、立命館大学 (13)、同志社大学 (15)、京都女子大学 (36)、京都府立西京大学 (29)、京都学芸大学 (10)、同志社女子大学 (8)、京都府立医科大学 (3)、京都府立看護学院 (1)、京大看護学校 (2)、京都市立美術大学 (2)

(大阪) 大阪大学 (2)、大阪外語大学 (6)、大阪市立大学 (1)、大阪女子医科大学 (5)、大阪府立港高校 (2)、

大阪女子大学（9）、大阪学芸大学（3）、関西大学（2）

（近畿）神戸外語大学（1）、神戸大学（14）、和歌山大学（3）、奈良女子大学（5）、兵庫県立八鹿高校（3）

（その他）山梨県立山梨高校（2）、長崎県立女子短大（3）、静岡大学（3）、早稲田大学（1）、中央大学（1）、岡山大学（1）、鳥取大学（2）、学籍なし（2）

大会参加者総計 254 名（ただし登録の分のみ）】

【メッセージ】

立命館大学末川総長 同志社大学生部長 同大田畑学長色紙祝電 関西学連委員長 京大宇治分校自治会
高良とみ女史 総評青年婦人対策部 神戸大教育学部自治会 母と学生の会 京都府労連 京都府職 内灘
診療所 立命一部学友会 私学連 婦人民主クラブ 全学連委員長 神戸外大 湯川すみ夫人 北海道学連
わだつみ会 深尾須麻子氏 東京都女子学生会準備会 京大同学会 羽仁説子氏（出張中との返信） 日電
労組青年婦人部 長崎女子短大】

第一日目大会内容

午前十時より

司会 京大山内理子（関西女子学生大会準備責任者）

あいさつ 京都女子学生の会会長 長川英子

今日この大会にお集まりになつた皆様に心からのごあいさつを送ります。

今度私達は始めて女子学生の手で私達の大会をもつことができました。これは非常に素晴らしい事だと思
います。私達は今迄多くの問題にぶつかつてきましたし、現在も抱えきれないほどの色々な悩みをもつてい
ます。けれど今迄私達は今迄多くの人達と話し合わずに一人で苦しんできました。そうして解決しようとす
ればする程、ますへみんなと離ればなれになり希望も失われていきそうです。もう私達は個々ばらへに
つぶやくことを止めようではありませんか。今日から行われるこの二日間の大会で私達は、私達のたのしい
生活、苦しい生活を全てのお友達に話しましょう。又お友達の色々な話もききましょう。色々なことを真剣
に討ぎするなかで困難な問題も少しづつ解決の方向がみいだされるでしょう。この大会を出発点にして平和
で幸福な学園生活をきづくために明日から皆で手を取り合つて共に進んでいきましょう。最後にこの大会を
もつために中心になつて努力していたゞいた準備会の皆さまと各団体、男子学生の皆様に心からお礼を申し
上げます。

立命館大学総長末川博氏あいさつ（要約）

今、平和か戦争かの岐路に立つているのは日本と西独である。日本に於ては戦争勢力がおゝいかぶさつて
いるが世界は必ずしもそうではない。歴史は必然の道を辿るのである。日本に於る戦争勢力が全てではない。
無防備国家にはどんな国も戦争は仕掛けぬものだ。むしろ二十～三十万の軍隊を持つて却つてそれが水爆原
爆への誘導にならねばよいが、しかもそれ丈の人数でどうして国家の鍵一泥棒を防ぐと云えようか。今日本
が再びこの道を踏めば今度は何も文句は云えない。世界から打すてられるだろう。今日本には真実の、そし
て専門家の言を吐かせまいとする傾向がある。かつては私も死にたくなかつた若人達を戦場に送りこむ「だ
ます役」を果たした事があるのだ。だからこそ、今度こそ皆様も父母姉にだまされないよう伝えてほしい。そ

して唇に歌をのせ、揺がない大地平和の道え、未来を信じ未来のために生きてほしい。そのために個人の力を過大に評価してはいけないし過少評価もしてはいけない。しかも国民の半数は女性なのだ。どうか個人々々の尊敬を平和の力の中に生かしていつてほしい。

ギ長団、運営委員選出 選出法司会者一任

ギ長団 奈良女子大 宮地。和歌山大 木村。同志社大 中島。

運営委員 神戸大 小山。京都女子大 菱谷。大阪外語大 浅羽。立命館大 加藤。

ギ長よりこれから関西女子学生大会を開催する事を宣言 万場拍手。

メッセージ受付・各外部団体よりよせられたメッセージを受け、時間が足りないので書面でのメッセージは団体名のみ朗読

昼食

午後一時十分より

経過報告 関西準備会より本日迄の経過報告 立命大 井川。(要約)

今年の五月二十三日、四日に行われた日本婦人大会で職場の夫人、農村の婦人、家庭の主婦と互いの苦しみを語り合つてみんなで助け合おうとちかつたことは私達に勇氣と力を与えました。この大会に参加した女子学生は、女子学生がまず団結するために全国的な連絡をとることになり全日本女子学生の会準備会をつくり各地方で地域の女子学生の会をつくることになりました。京都でも早速女子学生の会をつくり、西日本学生平和会ギで学内の実状を訴えた京都女子大学生の処分問題に対して、各団体と共に学校側に抗議し市民に実状を訴えました。京都女子大ではこの斗いの中で処分を撤回させ、自治会をつくり、学内の封建制を少しづつ打破りました。六月の全学連大会では参加した女子学生が全部集まつて女子学生の生活について色々話し合い、こゝで全日本女子学生の会を結成し、秋に第一回の全国大会をもつことに決めました。その後東京では二十校の女子学生が集り、東京都女子学生の会準備会を結成しました。

この間コペンハーゲンでは世界婦人大会が行われ、日本の婦人も外務省の妨害をケツて十人が参加しました。夏休みが終つてから全国各地でこの十人の代表を迎えて報告会がもたれ、女子学生も積極的に参加しました。

全国大会の書記局が立命におかれた関係上全国大会の準備は京都を中心にして活発に進められ、京都女子学生の会総会の席上京大より「全国大会の前に関西大会をもち関西での意志を統一させよう」と云う事が呼びかけられ万場一致で賛成されました。それから今日迄七回の準備会をもち一万数千円のカンパが集められ、府学連の協力の下に、女子学生の手で大会準備はすゝめられました。又教授や労働者からも協力の暖いカンパが寄せられました。美大、京都女子大、大谷女子短大の様に学生を参加させまいとする学校側の弾圧にもくじけず団結した私達の力が今日のこの大会を成功させたことを非常にうれしく思います。

参加校・人員数紹介 二十五校 一九八名

美大生より大会への訴えをとりあげる。一美大生の投書を大会に参加している美大生が朗読。

学校の内部を話すことを禁じられているので投書する。美大では学課は全て出欠をとり 1/3 以上欠課すれば試験を受けられません。講義内容もつまらなくて、或る教授に至つては毎年同じ宿題を出しています。

学内の設備は不十分で、実技もモデル一人につき四十人も描かなければならないときがあります。もつとひどく画架がなくて描けない人もいます。しかも学生の要求は教授会にかけられてからでないでと学長や市え出せません。アルバイトや学生の下宿の斡旋に対しても何ら積極的に動いてくれません。お金も授業料の外に実習七千円、設ビヒの名目で寄附金三千円、父兄会に半年分六百円を納入しなかつた者には身分証明書を渡さなかつた事がありました。学則には試験に合格し、入学金と授業料を払つた者には入学を認めると書いてあります。絵を描くためにはお金が要り、アルバイトをすれば学課の単位がとれません。この様な問題を組織的に発展させようとしても、総会は禁止され掲示物は文をけずられます。交渉委員のある人は父兄の呼び出しまでされました。このまゝでいけば私達は更にへしめつけられていきます。私達は金持のための絵を描きたくありません。皆様に楽しんで頂ける絵が描けるまで私達は頑張ります。皆様も強い力を借して下さい。以上朗読要旨

議事進行方法について

運営委より議事運営に関する提案

1. 各校最低一人の発言 京都女子大の様に発言権なしの参加者が居れば大会の意義がなくなる。最低一人は必ず発言する様にしたい。
2. 報告は中心点を明確に 多くのことをしやべりたいと思うが細かいことは分科会で話し合う事にして、□□その学校で問題になつている点や特に訴えたい点を明確にしてほしい。
3. 大会をもつまでの斗いを出してほしい こゝえ出て来たくても出て来れない人が多くあるし、出て来た人も色々な斗いをして出て来られたのだからその体験を話してほしい。
4. 決議権はこの大会に出席した人が全部もち決議は全て万場一致にする事 京都女子大の様に決議権なしの参加は困る。全員が決議を持つてほしい。又決議する時には一人も反対者が居り□□が納得出来る様にするため万場一致にする

京都女子大 万場一致には全く異議はないが私達は決議権と発言権なしの条件付きで参加を許可してもらつてきた。補導課長と一緒に付いてきて今別室で話し合つているが、これについて討議してほしい。補導課長に会場え来てもらう。万場拍手

京都女子大学長に関西大会準備会より交渉を行つた京大井元さんから交渉経過を報告。女子大側では大会の性格が分からないのでオブザーヴァーとして発言権決議権なしで参加させ、大会がよいのだと分つたら改めて正式に参加させると云つた。

土井先生（女子大補導課長）入場、拍手をもつて迎えられた。

ギ長 発言権と決議権が禁止されているがその理由を土井先生におたずねしたい。

土井先生 関西女子学生大会及び京都女子学生の会の性格が分からないので今日はそれを知るために出席したのであるからオブザーヴァーとして参加したい。

学芸大 この会の性格は前もつて作られているものではなくして、この参加者でこれから作つていくものである。

宗教組 ケン法の基本的人権を無視したものだ。言論の自由を個人の基本的人権として認めよ。又この会の性質を知ることとは見ることではない一緒に話し合うことだ。

京都女子大より紙片でもつて訴える 私達はこのままでは発言出来ない。私達の発言をこの大会の名をもつて責任をもつて下さる事を要求する 決議 万場一致で可決

各校の現状報告

和歌山大 和歌山の水害の現状報告と、罹災者に対する積極的な救援活動の訴え。

立命館大 女子寮がない。

同志社大 寮はあるが学生数に比べてまだ少ない。又寮の問題は立命、同大だけではないと思う。

京都大 女子学生が少ないので女子の設備が全くない。寮もない。寮がないために女の人が学校へ行けないと云う事実がある。

静岡文理大 寮のカクトクを経験を報告、その中から一、確実な資料を出す事、二、男子学生にも協力を得ると云う二つの事柄を実行する事が大切だ。

神戸外大 寮が広くて悩んでいる。理由は学校から大変遠くはなれている事と、文化施設が全くない。

西京大学 寮生にアルバイトが禁止されている。従つて生活に本当に困っている学生が寮に入れない。寮と学校が非常に遠い。

学芸大学 寮は自治組織とは名目だけで封建制が強い。建物は旧く、短期と四年生の学生がいつしよに住んでいるので、種々の問題をとりあげるとき、お互ひの利害が対立してやりにくい。四年制学生は学校と遠い。

同志社大学 寮の問題はこれだけでは解決されない。同志社の寮では選挙権ハクダツ反対の斗ひで寮生の気分が一変した。

京都女子大 やはり寮は不足し条件は悪い。しかしこの寮の問題は男女両方の問題であり、特に女子の場合は集中的に現われているだけである。それらをはきむ根本的なものは何かを追求したい。

運営委員 討ギを深めるのは明日の分科会でやることにしてここでは問題提起にとどめたい。

奈良女子大 寮は封建的なフンイキが強かったが、選挙権ハクダツ反対に学内の先頭にたつて闘う中で逆に寮の封建制が打破された。

京都女子大 討論が上すべりだ、発言権の禁止の問題も、寮の悩みも、学生々活の圧迫もその根本問題・苦しめているもの、本質を見きわめることが大切である。

大阪市立大学 校舎の三方がアメリカのスペシャル・ホスピタルで基地の中に勉強している。今返還された校舎も、客観的情勢も恵まれてあつたが、学生が一弾となつて闘つたことにより戻されたのだ。しかし校舎はバラバラに点在し、学内を分裂させてきている。

神戸大学 校舎が各学部で分散しているので女子学生も少人数ずつ分けられている。経済学部では女子が非常に少ないのに控室があり、教養学部では女子学生が多いのか、はず控室がない。こうして各学部の要求や利害を対立さすことによつて学内の統一から分レツさせようとしている。

立命館大 控室もトイレも獲得できたが、それまでに男子学生の無理解があつた。進歩的な学生と云へども、非常に本質的に封建制がある。

学芸大 紙芝居を、最初は話し方を上手にするためであつたが行動の中で子供を守ることが目的になり反米的になつた。基地の影響を直接受けていない所の子供にも「ヒロシマ」をみせてもよいか。

京大 三年になつて就職の問題にぶつかつて始めて「女」であつたことをしる。吾々は大学の四年間の生活だけを問題にしてはならない。社会の封建制の中でどう生きていくか。全女性の立場から分科会で討ギしたい。

阪大 四年生になつて就職問題に直面して、憲法に保障された権利は紙上だけのことであることを通感

する。一番大切な卒業後のため、そして後輩に連絡をつけるためにも同窓会を作ろうと思つている。

取鳥大 地方大であるため自治意識が低調で関西大会のことも問題にならない。全国的にはまだ女性の意識は低いのではないか。

大阪女子大 家庭からと同時に学校側からも就職の不必要がとかれる。寮問題では府の予算がないというのがきまり文句である。今学校規約の成作中で学生権に自治をみとめるかどうか問題になつているのだ。自治会代表で出席しているが学校側は黙認のかたちである。

山梨高校 高校は予備校化されているが、クラブ活動と受験勉強が両立できるように大学の皆さんの協力を願う。

京都女子大 文化祭で日中貿易を拒む力は米日反動だという事実を発表させない。それは何故か。西本願寺が農村の封建制を基ソとしていること。天皇制は戦争のシンボルである、というふうに、反動勢力の一権力機構であるからである。

大阪外大 自治意識が低い。

神戸大学 控室の問題が男子学生にふまじめにとられる。それは男子の封建制に帰一する。

岡山大学 女子学生の特殊性を取りあげることも必要だが、男子にも女子にも共通にかぶさつている本質を忘れてはならない。

同志社女子大 学生の自治意識は低く、学生会は御用機関となっている。自治会に立候補しただけで危険人物と思はれる。ヒューマンリレーションという講義（ミツシヨンスクールであるが故に存在するもの）で親米思想をふきこまれる。

同志社大学 完全な自治寮につくりあげたたかひの報告。舎監的寮母追出しをはじめとして破防法反対寮費値上げ反対 選挙権ハクダツ反対の斗争を積極的にやる中で寮の封建制が打破できた。即ち反米反吉田の斗ひが寮の封建制をなくすもとであるということになる。現在では寮の職権の限界も明確になり、入寮に関しては学生側に選抜権が与へられ、寮ヒ値上げも寮生が一致団結して学生部と交渉できる。

看護学校 三年生から実習であるが講義内容は低く技術養成に終つている。困難な中で文化活動を行つて来たが看ゴ学校同志のつながりが必要となつて来たので国立大だけでも連れいしようと努力している。

分科会の持ち方決定について

運営委員の案

一、問題別にわけて希望の所に行く

一、学校別に分れる 女子大、共学、宗教大、高校、短大、国立大、私立大等

一、人数を何グループかに均等に分ける。

会場からの問題提起

現在何をすればよいのか。現実にはぶつかつている問題についてどうすべきかを討議したい。何か外へ向ける力ばかり強調されるようだが内部をどう団結するかが問題である。

京大 封建制が一番問題になると思うが例えば、この楽友会館を借りるのに如何に困難だつたか等、私

達の自由の制限されていることが中心ではないか。

議長 自由を拒む力をてつて的に討ぎするための分科会である。従つて分科会の持ち方についての運営委員会の提案に対して賛否を問う。

京大 問題別では、いくつもの問題を持つている者はどこへ行くか迷う。学校別に賛成する。

神戸大 問題別に賛成。討議が深められて収穫が多い。あとで分科会の集計もあるから。

?大 女子大も共学大も苦しみは同じ所に起因するのだから一緒に討議したい。

運営委員から学校別にした理由説明

女子大も共学も苦しめられている原因は一つであるが現象面を見ると、そのあらわれ方が異っており、具体的な行動を打ち出すために同条件下のものが集る方が事情がよくわかる。もう一つは個人が多くの問題を同時に持っているから、学校別がよいと思う。

同志社大 問題別に賛成。各大学の交流必要。

神戸大 反対。学校別賛成。問題別では近視眼的になる。

同志社女大 学校別賛成。女子大には共学の人にわかってもらえない問題があるから。

神戸大 問題別賛成。女であると云う条件は一つで、問本問題は一緒なのだから。

?大 学校別賛成。総括的討議が分科会のあとにあることを忘れていないか。

京大 学校別と云っても高校・看護学校は参加人数が少ないのではないか。

?大 再び両方の説明を求む。

同大 運営委員提出の第三番目の人数制が無視されているのがおかしい。左の様に分けたらどうか。

- 一、女子学生の自治意識をどのように高めどのように団結するか。
- 二、女子学生の生活をよくするのにどうすればよいか。
- 三、女子学生の就職の問題をどう解決し、どのように社会に進出したらよいか。

?大 学校別のも問題別のも作る。セツ中案を呈出する。

?大 経営別にしてはどうか。(予定の時間をはるかにオーバー)

京大 今夜泊るお□でもつと討議してはどうか。そしてこの問題は大切だから、満場一致制は是非残しておきたいし、明朝三十分でもよいから、皆で再討議してきめたい。

議長 明朝分科会を始める前にこの問題をもう一度討議する事にします。

午後四時五五分 第一日目の議事終了。直ちに京大中央食堂で晚餐会。

五時三十分より京大西部講堂で 映画“若き親衛隊”を団体鑑賞。

九時、百万遍智恩寺に着き、座談会形式で相互の交友を深めた。

(大会第二日目)

七日午前

開会 午前九時三〇分 於同志社明德館

議長団 第一日に同じ 書記 小林・角(立命)

昨夕に続き、全員一同に会して、分科会の持ち方について討議した。分科会の時間の短くなる事が度々懸念されたが、分科問題は単なる技術的なことでなく、何故学校別にするかを討議する中に本質的なことが明らかになると云うのが運営委の意見であった。

問題別賛成者の意見—学校別にするのは全く形式的な分け方である。一つの問題を徹底的に掘り下げることが出来ない。ここではあらゆる学校の人と話合わねば意味がない。女子学生だから皆条件は同じだ。

学校別賛成者の意見—寮なら寮の問題をとりあげても、共学ではどうして建てるかが悩みであり、女子大では束縛や待遇の悪さが出る様に、同じ環境—支配機構下の経験の交流こそ、私達が明日から闘う道を明確にする。

（最初、両者は人数相半ばしたが、学校別の難点と思われる点が総会で補われる事等が理解され、問題別は少数となった。「しかし、一長一短で全員一致はむづかしいからこれに限って多数決にしたら」と云う意見がここで出た。昨日の満場一致制を決定した時不十分だったその意義が再確認されねばならなかった。女子学生である以上、種々な主張を持っていてもそこに敵対的矛盾がないのだから必ず話しあえば意見は一致すると云うので更に討議が続けられた。結局学校別に全員が同意、決定。運営委より提出の具体案をけん討して修正を加え「国立」「公立」「私立」「女子大学」「教育系大学」「医学部系大学」「短期大学」「高校」の八分科が区別された。（十一時二〇分）

校庭で記念撮影。各分科会毎に昼食。

お断り 事務局の手違いから、記録紛失、七日午前の部は要約のみになりました事をおわびします。

七日午後

同志社大学 岡本先生のあいさつ（要旨）

女子学生の集会在、男子学生とは別にこうして開かれたことの意義は、日本における現状からみて、決して少くない。女性の解放は、男性からの解放をではなく、支配階級からの解放を意味する。したがって女性解放は時代によって異なる。その時の支配階級のあり方によって異なるのであるから。社会に被支配階級がある限り、女性は解放されない。封建時代においては、身分制度の一ばん下に女性があつたし、現代資本主義社会においても、比較的女性の地位の高いといわれるアメリカにおいてさえ、女性は、単なる男性の従属物にすぎない。資本主義社会が、社会主義の、共産主義の社会へ発展して、支配するものと、支配されるものとななくなり、皆が平等な社会になれば、このような会合を持たなくてもよくなるであろう。婦人の地位の向上に、決定的な役割をはたすのは、各時代の被支配階級であり、労働者であったことは重要である。婦人の解放をはばむものは、支配階級であるから。すべての被支配階級が、解放された時こそ、婦人の解放される日であるから。女子学生も、労働者の人々と団結しなければ、真の解放は得られない。

中井あい先生あいさつ（要旨）

子供たちは、現実を二つの眼でみて、社会に対して色々な疑問を大人にきく。それに対して大人は、子供達の疑問に答え、それを率直にのぼす事をせず、社会に対する批判の芽をつみとろうとしている。現実には、身をかかわしたくなる位であるが、大人達も子供達のように、卒業に現実を二つの目でみきわめて、矛盾をつかみ、個々人の幸福を普へん化して考え、共に手をとって進むようにしなければならない。

“あわせきくものは明く、ひとり考えるものは暗し” 私達は二つの眼ではっきりと現実をみきわめて協力して進みましょう。

各分科会の報告

高校の部 参加校 同志社女子高、八日高、京大など

- ・受験勉強と自治活動は両立し難いというのが、高校生の最大の悩みである。この原因をいろいろ話しあった結果
- ・これらの問題は社会そしきの矛盾から来る。社会そしきを変えるために、私達は力をあわせなければならない。
- ・女子学生などと、一般の労働者家庭婦人などとの間のみぞを埋めるために、教えるというのではなく、お互いに身近な問題から話しあうという方針で団結を詰め強める。
- ・今日出席した八日高校と、同志社女子高校との間に、連絡そしきをつくる事をきめ、早速実行に移す。

医学部系の部 発表者 大阪大学 坪田

参加校 京都府立医大、大阪女子医大、大阪大、京大看護学校、同志社大 その他

一、医学部女子学生の悩み

世間では独立性をもっていると考えられている女医という仕事も、決してそうではない。大阪大では、婦人科、小児科からは、女医は閉め出されている。女医にとって、これらの科を除いて適当な職場があるだろうか。京大では、私が試験官だつたら、女子学生は入学させなかつたのにと教室で公言した教授がある。某大学では、女子には、口頭試問をむずかしくして入学を妨げた例がある。大阪女子医大では、女は能力が低いとか、結婚するからとかいう理由で偏見を持たれている。

二、看護学校の問題

病人に対する仕事は、医者は治療・看ゴ婦は看ゴという対等の立場であるべきであるにも拘らず、看ゴ婦は、医者に対して従属関係になりやすい。

- ・看ゴ学校の教育内容のひん弱。看ゴ学という学問的体系がなく、婦長などの経験のよせあつめにすぎないものを教えられている。
- ・不当な実習制度・予備な実習設備で、実習は効果的に行われていない。
- ・看ゴ婦の地位をあげることを学園復興会議で何とかしたい。

三、医学部関係では、自治意識がひくい。

- ・女性は、家庭でも社会でも封建制に苦しめられ、社会への眼を閉ざされている。
- ・看ゴ婦が医学部の封建制の一番下のしわよせであるから、看ゴ婦の地位の向上ということが、医学部の封建制をうち破る第一歩である。具体的運動として、今、「全日本看ゴ学校連盟」を作りつゝある。
- ・女医と看ゴ婦との対立が、いかに女医にとっても不利になっているかを認識し、女医と看ゴ婦は手をにぎって、医学部の封建制に向かって斗わなければならない。

四、結婚の問題

- ・看ゴ婦は寮に入らなければならない。又看ゴ婦という仕事には、社会的偏見が多く、看ゴ婦の仕事と結婚とは両立し難い。これは、女医の場合も同じである。
- ・女性の側にも依頼心があるのではないかと反省しなければならない。しかし、結婚の問題も女だけの問題ではなく、社会を変革する中ではじめてなされるもので、個人の話し合いだけでは出来ないものである。したがって、社会の働く人々との協力のうちになされなければならない。

共学の学校(私立)の部 発表者 神戸大学 宝代他

参加校 立命大 同志社大 関西大 慶応大(女子学生の代りに男子学生)
京都女子大 その他

・各大学における女子学生のように

一、設備の不足 寮がない。控室がない。トイレが不備である。

二、今まで、女性は、生まれては親、嫁しては夫、老いては子にしたがえ式に育てられ、自分の幸福を自分でつかむという意識が欠けており、それは、学校においては、女子の自治意識の低さとしてあらわれている。これを、どうして高めるかが大きな問題である。

三、その他、女子学生の問題として、家庭の束縛が非常に多い。卒業後の結婚・就職・研究の問題などがあげられた。

・“女子学生の会”というものに関して討議は集中した。

女子学生の会というもののはたして必要かどうか、女子学生も、自治会組しき、サークル活動など、男の人の間で活やくすればよいのではないかという意見が二校から出され、話しあった。その結果、

*学校をよくするためには一人一人ではだめで、団結しなければならない。このような状態の中で、女子学生の組しきの持つ役割は大きい。

*女子の希望は、女子でまとめ、話し合う必要がある。

*法律の上はとにかく、女性の社会的地位はひくい、いかにして女性の地位をあげるかを考えるとき、男女の協力の必要性が痛かんされる。

・女子学生の組しきを有志の会にするか、全学的な、全員加入的なものにするかは、各自学校へ持って帰って討議し、今度東京で開かれる「全日本女子学生大会」迄にははっきりきめて、実質的にうごき出したい。

高校からの緊急討議

被処分生徒に激励文 }
学校側の抗議文 } をはがきにて送る事を提案

右 全員の拍手で採択

短期大学の部

発表者 長崎女子短期大学 中村令子

参加校 神戸大学教育学部 京都女子大学 西京大学 長崎女子短期大学 中央大学 その他 計九名

短期大学の学生の出席者が非常に少ないことは意外である。短大は学校数においても学生数においても非常に多く、女子学生の九割は短大生とまで云われるのにも拘らず、短大生の出席がこの様に少いところに問題がある。

一、何故私達は短大にいつているか。

短大に学ぶ女子学生達の中には、せめて短大が三年あればよいのという声強い。それなのに何故短大に来るかといえば、地方には四年制大学は少く、短大の女子大しかない。中央の方の大学に行きたくても、社会的に束縛を受け、経済的な圧迫も女ばかりにかぶさつて来る。

自分自身の中にでき上ってしまった社会観・世界観のため、自分自身がごくあたりまえに出来上がってしまう。これが多くの女性の姿である。結局、負けて地もとの短大に吸いこまれていくのが実情である。

にも拘らず、短大は軽視されている。問題以前の問題が如何に多くの女性の障碍になつてゐるか。

二、短大に学ぶ女子学生の具体的悩み

- ・授業内容が面白くない。
- ・二年の間にぎつしりという／＼なものがつめこまれ、毎日八時間位の授業におわれ自分で考え、サークル活動など自分のしたいことをする時間がない。
- ・就職に関しても能力がずい分落ち、社会の要望にそえない為か、社会から閉め出されている。嫁入り前の時間つぶしと云つた観念が社会的に存在し、又女子学生自身の中にも忍従と依存の中に甘んじている人がある。これは自身の向上と共に社会的な観念の変革も必要である。

三、どうすればよいか

- ・授業内容がおもしろくない件については、教授自身、女の子だからといつて内容を下げるなど、理解不足が大きい。その事を打破したい。
- ・非常に力を与えられた今日の会議の成果を自分の学校に持ち帰り、話し合いに依つてすべての人の間に拡める事に力を入れなければならない。
- ・短大の様子をみんながもつと理解してほしい。

女子大学の部

発表者 大阪女子大学 磯部和子

参加校 奈良女子大学 大阪女子大学 同志社女子大学 京都女子大学 長崎女子短期大学 京都学芸大学 立命館大学 京都大学

最初二〇名だつたのが、後半になつてから四五名余りにも増員し、時間が足りなくなり議事はまとまらなかつたが、私達はまとめる為に集つたのではなく、共通の悩みを話しあう目的で集まつたのである。そしてそれをどうすればいいのだろうか、どこに原因しているのだろうかと互に討議し合つた。

一、女子学生共通の悩み

- ・学園の自由と封建性

女子大学では共通して程度の差こそあれ、共学の大学と比較して、非常に自由が束縛され、一個の人間・女性として生きる事すら制限されている。「女の子だから」「お家から預かつてゐるお嬢さまだから」「その大会の性格が解らないので」という理解でこの会場で発言する事すら許されない京都女子大や、この大会に出る事すら許されない女子大学女性であるが故に家庭の封建制、それに連なる学園内の束縛のために非常に苦しんでいる。私達はこれをどうすればよいのか。奈良女子大では選挙権はく奪の問題を契機として五人十人の話し合いの中から立ち上つた。長崎女子短大では学生の団結によつて自治寮を確立する事ができた。

1 アルバイト

サークル活動などには冷淡な人もアルバイトは熱心に求めている。にも拘わらず学校側は就職に関して非積極的である。それに対して京大では女子学生懇親会を作り直接に外部団体に働きかけ効果を得つゝある。この例からも女子学生が手を組み積極的に先輩外部団体に働きかけて解決する努力が必要である。

2 サークル活動

まじめなサークル活動をすると「赤」のレッテルをはり、外部的圧迫が加わる。これは就職の場合などはつきりと表われる。私達はまじめに豊かな学問をしようとする事すら阻まれているのが現状だ。

3 就職の問題

女子大生は就職したくても出来ない。学校へ求職依頼に行くと永久就職をすゝめられた学生もいる。男子学生に比較して一只女子学生の場合深刻である。女の方は就職期間が短いから重要な仕事はしてもらえないというが私達はこゝでも社会の矛盾に突き当るのである。明るい豊かな学園から巣立ち安心して働ける社会は、社会施設が完備した社会でなければならない。

4 共通の問題をどう解決すればよいか。

学生一人一人の話し合いの中から学内の女子学生相互が団結し、唇には歌を、心には太陽を抱き、そして学園の自由を目指して、明るい未来に向かつて手を組んで進まなければならない。

教育系大学の部

発表者 神戸大学 山本

参加校 京都学芸大 大阪学芸大 神戸大教育学部 和歌山大教育学部

大体共学の形をとりながら女子の数が多いいにも拘わらず女子特有の問題が余り出てこないところから討議を始めた。

- ・女子師範時代の系統が残されて男女の差別は余り出ていない。学校の設備、教授陣等もうんとおちるのは師範の伝統であろう。
- ・中央から出て来た人や一流大学に入れなかった人が多いための劣等感。
- ・再軍備の問題から来る文教予算及び地方大学の悩みが教育学部系統に集中的に表われている。
- ・私達が正しいことを正しいと主張することを禁じている何かの障害を自覚しながら女子学生の意識が低いのは、私達がめぐまれすぎており時代を進めて行く力を担っていると云う意識のうすさによるものである。
- ・関西女子学生の会を機として私達女子学生の問題も教育の問題と結びつけて統一をもちあげて行き確信をもって前進することができる。

国立大学の部

発表者 神戸外大 白藤

参加校 神戸大 京大 静岡大 阪大 神戸外大 和歌山大

・就職の問題

女子であるという理由で就職が悪く外大などに於ては英米学科は比較的よいが、中国語、ロシア語学科に到っては、甚しく悪いと云った現状である。これは教授その他社会一般の人の就職問題に関する認識の不足と家庭に於ては就職を喜ばず嫁入り道具を買い求めるために就職すると考えられている。

・女子は何故就職できないか。

女性の能力と嫁入前の腰掛によると云う意見もあつたが討議を重ねるにつけ女性の能力は問題ではなくなり、より本質的には職場教育がなされないために自分自身劣等感を抱き、生まれつき劣っているかの錯覚におちる。

□□□ことについて、結婚して子供が生まれても仕事をして行くことができる様な設備がいる。

女性が職場より追出され、“女よ馬鹿になれ、家庭に入れ”と云われるのは家族制度を残して行こうとする封建性に根ざしている。

再軍備に関連して女の大学卒業生をしめ出すと云う事は比較的低賃金で働く女性を備うと云うことであり、それは男性をしめ出し、保安隊へ戦争へと進ませる道を歩くことである。

女の就職は単に経済的な問題ではなく一人間として生きたいと云う気持からであり、我々が一人間として働けるようにするためには団結が必要である。この団結は女性ばかりでなく男性の意識の改造が必要であり、それは結局社会改革に迄及ばねばならない。

・大学に於ける設備

控室—設備がないために利用価値が少い。

便所—女子便所がなく、外に掘立小屋があるだけである。

寄宿舎—完備するためには女子の団結が必要であり、その点でも男子の方にも手伝ってもらい、これらの協力の中に於て男子の人の封建的思想を直して行く。

・女子の団結の具体案

RRセンターの設置に伴う女子の団結

女性史研究会などを通じて行う。

話し合いが一番重要であるから男子学生とも大いに話し合う。

具体的な要求を皆で克ちとること。

サークル活動、研究会活動に女子が加わる。

結局、団結は話し合いによらなければならない。

分科会の討論

議長 一応分科会の報告を終わりましたが報告に対しての質疑応答に入りたいと思います。

運営委員より提案 各分科会から一名づつと運営委員一名により大会宣言の草案委員を構成したい。

全員異議なし

以下、発言者 校名氏名発表なく討論が大いに活発に行われたので発言内容を全て記録することが不可能につき、要旨のみに止める。

【数行欠落か？】

・この大会がもたれるようになったのは六月の婦人大会（コペンハーゲン）が開かれたことによるものであることを忘れてはならない。六月の婦人大会から十二月の第二回全日本婦人大会により大きな力をもちこむことが必要である。

・私達の後にいる大勢の人達にこの大会の成果をどんな形でもちこみ強化するか必要であり、今後の連絡を拡め強めることが必要である。

・団結を拡め、強めるにはどうしたらよいか考えよう。

・みんなで考えみんなで話して行く場として話し合いの場を作ろう。

・横の連絡を緊密にしよう。

京大 ・私達が話し合いの場を作り団結しようとするのを阻む力に対して徹底的に闘う勇氣が必要である。

・今日の大会の成果をみんなにもちこもう。

・学校で家庭で職場であらゆる場所で話し合う機関紙を発行しよう。他の働く人々と力を合せよう。

- ・ 斗い的手段として女子学生の力だけでは駄目である。大学に來れなかった女の人にも、男子学生の間にももちこみ協力して斗おう。
 - ・ 姉さん達母さん達農村の婦人達と力を合せる。
 - ・ 学園復興会議にもちこみ一緒に斗おう。
 - ・ 名オルグになるには人々を指図するという気持ちをぶら下げてはいけない。
 - ・ おくれている人々にめざめてもらうには
- 静岡大
- ・ 私は來る時に四年生の人から、私達の就職問題について是非今度の大会で何とかしてほしいとたのまれてきた。就職問題に関して具体的に動き出してほしい。
- 府職
- ・ 就職の問題だけを切りはなして考えることは出来ない。やはり全婦人・全労働者の団結の力がほしい。団結して斗っていく中に徐々に解決していく問題ではないだろうか。現在婦人連合を作り第二回全日本婦人大会に向けて大きく動き出しているから私達一緒に斗いましょう。
 - ・ 女子学生の問題は就職と結婚の問題に集約されるのである。就職と結婚について考えてみよう。
- 立命
- ・ 先日もある夕刊紙に女子の就職は腰かけ的なものであり、又大学を出た女の人達はお高くて、職場でも家庭でも折合いが悪いと書いてあった。この事について私達自身も反省しなければならないのではないだろうか。
 - ・ 同窓会など自分達と同じような立場の人々と連絡をとつていく。
 - ・ 日常、私達につきまとう封建的なもの 義理人情にしばられそれを打ち破ることは非常にむづかしいが、私達はそれらを打ち破らねばならない。どうすればよいか。
 - ・ 私達を規定づけてしまっている社会の力に対して女性がみんな手を取りあって勇気をもって対決しようという呼びかけをつゞけよう。
- 婦民
- ・ 自分自身の場所で婦人の権利宣言をどのように実現していくかということを行行動の指針とする働く婦人が究極的には婦人解放を斗いとるものである。私達の自由はいろ／＼な所で妨げられているがそのことはあらゆる働く婦人にも共通する。学内の問題も働く婦人達の中にもちこみ一緒に斗うことによって解決される。
- 京大
- ・ 団結によってという希望は学生だけの問題ではない。労働者の婦人達が集まることによって、私達も勇気づけられる。婦人労働者達に団結を呼びかけよう。
- 小畑氏よりアピール
- ・ 京大当局は、学園復興会議に教室を貸さないのか。今学生達が座りこんでいる。彼等の為に資金カンパを訴えると共に皆さんが学園復興会議に積極的に参加されるようおねがいします。（全員拍手、採決たゞちにカンパ袋がまわされる。この間、小畑氏と同志社教官との間に、会場についての応酬がある）（運営委員よりカンパ集計報告あり）
- 同大
- ・ 大会宣言の中に平和の問題を入れてほしい。
- 京大
- ・ 平和でなければ我々の権利も何も全て無である。
- 京女
- ・ MSA 援助をもらうな、基地化反対、憲法改悪反対、選挙権に関する自治庁通達反対などを具体的にあげよう。
- 京大
- ・ そして又、身近に問題になっているようにこの問題、例えば米価値上げ反対、水害地に救援金をよこせ、保安隊の三十五万増員反対なども入れよう。

【数行欠落か？】

- ・MSAとか基地とか再軍備とかの問題よりもむしろ女子学生の特殊性をはっきり出すべきだ。
- ・宣言は大きな範囲で誰にでも納得されるような線を出さなければいけない。
- ・MSA、基地化、再軍備などの問題も女性の立場としても話し合う必要がある。
- ・再軍備ほど私達の生活に密接に結びついているものはないのだから。
- ・昨日の会議や今日の分科会でその事が問題になつたのでしょうか。そこまで討論が進んだのでしょうか。宣言文はあくまで大会の討論の範囲で再軍備反対とか、基地化反対だけをとり出すとこの大会の新鮮味がなくなる。

草案委員会作成の大会宣言文草案をよみあげる。

議長 ・この宣言文に関して批判して下さい。

京大 ・原案はこの大会をもつ以前と変りないものであった。私達は苦しい。それなのにこんな状態だと云うことばかり並べてあっても、そんなに苦しめるものは何か。如何にして解決するか出されていない。

・大会で深められ、結論づけられたものをもつと盛りこんでほしい。私達を苦しめるものは、はっきりと現在の政治権力である。

・今の草案は全く骨抜きである。これでは私達の大会の成果を十分に盛っているとは云えない。もう一度その点を考慮して草案委員にかき直してもらおう。

議長 ・それではもう一回よんでもらい批判し合うというのですか。もう時間も大分予定を過ぎているし技術的にはむつかしいのではないか。

京大 ・団結の線を基本線にして細かい事は条項別にする。我々を阻むものは何か。我々は何に向かって進むか判然としてほしい。身近のところから場を作っていこう。私達の話し合った結果を一つ一つ具体的に進めて行こう。そういう努力を皆の中におし進めよう。具体的にはっきり出さないで人々をそのように向けるよう。それは行動の中で出したらよい。皆にみせる宣言文だからはずきりと出すことは巾をせばめる事だ。広く団結するために出さないがよい。決議を一つずつ確認しよう。

議長 ・大会宣言をおいて、総結討論に戻りましょう。

【数行欠落か？】

・女なるが故に、人間として当分要求し得る権利、獲得すべき自由が阻まれ、投げ捨てるべき封建遺制のために苦しめられている。これらのために闘う決意をもって団結しなければならない。私達の要求を貫くために労働婦人達と提携しなければならない。私達の後の後の人々とも団結するために話し合うことが必要である。—こういう風にしては如何でしょう。

京大 ・私達の自由を阻むものをはつきりと入れるべきである。それは吉田であり、アメリカである。

・問題がはつきりと分かっているからこそに発表するものではなくてみんなにアピールし、みんなを引っぱることこそが必要である。露骨な言葉ではみんなを統一できない。阻む敵をあらわすのは宣言によつてではなく行動によつて示すべきである。

京大 ・阻む敵を出さないのは、ぎまんではないか。

京大 ・基本的な線を出して宣言文は一行でもよいと思う。完全な形を作るのが目的ではないと思う。

項目別に一つ一つ黒板にかゝれていく

- 1 話し合いの場を作りましょう
- 2 平和憲法を守り、憲法に規定されている全ての権利を守りましょう
- 3 学生選挙権に関する自治庁通達撤廃を要求する
- 4 女性の上にかぶさっている封建性を私達の手で打破しよう
- 5 全ての女性が自由に学問し、自由な職業につける権利を要求する
- 6 戦争予算を文教費に
- 7 再軍備に反対し平和な明るい社会を作りましょう
- 8 再軍備によって軍にせばめられた女性の就職を保証せよ
- 9 結婚しても女性が仕事を続けられるような社会設備を要求する
- 10 女子学生の住生活をまもるために、物質的にも精神的にも安心して住める家をかちとりましょう
- 11 婦人の権利を守るために固く団結しましょう
- 12 学園の民主化をかちとろう
- 13 女性は自己の問題を社会的な問題として考える十分な勇気をもとう
- 14 アルバイトと就職における女性蔑視を排除しよう
- 15 学園の自由への圧迫に対して

提案

- (決議)
- 1 学園復興会議に部屋を貸せよ
 - 2 京女大の人が合法的に参加できるように抗議と激励文を出そう
 - 3 準備会を全日本女子学生大会準備会関西準備会とする
 - 4 学園復興会議に積極的に参加する
 - 5 日本婦人大会に関し準備会を通じて婦人各層にしみこませる

関西女子学生大会宣言（草案）

女子大共学を問わず、サークルや自治会の代表として、又個人として、二百人を越える女子学生が、京都で開かれた関西女子学生大会に参加しました。こんなことは、婦人運動史上、学生運動史上、最初のことであります。

人間として独立的に生きるのに女性の地位を高めたい。封建的な拘束から解放されたい。いろんな悩みを何とか解決したいという願いを持って、私達は、校風や家風を盾にする学校・家庭の圧迫をのりこえて集りました。

不当に早すぎる寮や家庭の門限、学内集会・掲示の干渉、公の場での発言の禁止、家事の負担等々。女子であるという一言で、したいこ言いたいことが自由にさせて貰えません。女子大では、講義内容の向上に何ら努力が払われていません。能力のある人が勉強したいと願つても、家庭と社会の封建性・経済的困難等によつて、教育の機会均等は全く無視され女性の教育は故意に阻まれています。

現在大学に来ている人も、寮がない、あつても快く入れない。下宿代は高く、アルバイトの為に勉強が充分できません。研究をもつと続けたいと願つても経済的に許されないのです。

女性が、格別安い給料で働けるといふ現状の中で、大学卒業の女性は閉め出され、又、性的差別待遇の為

に、特に就職口がありません。たとえ運よく就職しても、家庭生活のことを考えれば、託児所・保育所の設備のない現状では一生職を続けていくことが大変困難です。

これらの不満や苦しみの現れ方が、そのまま男子学生又は勤労婦人と同じだつたり、違つたりします。けれど、私達はこれらを生み出している原因が、封建的遺制を利用して戦争放棄をおし進めている現在の社会機構の中にあるとわかつたのです。

これは、一朝一夕にとり除けるものではないけれども、部分的ではありますが団結と話し合いで、更衣室・トイレット等の設備や自治組織を獲得しています。積極的に生産やその他の社会的・政治的改革運動に参加することによつて、始めて婦人は封建性による奴隸的身分から解放されるのです。

私達は人々の意識の中にある反動的慣習の影響を除き、男女平等の民主的な考え方を徹底させる思想改造の運動を進め、学園内における教授連の反動性を改めてもらい、男子学生とも真に平等な関係をうち立てましょう。

女性が独立した人間として生きる為に、その能力を最大限に発揮する各種の活動分野を持つと同時に、楽しい家庭生活を持つことは、平和な社会に於いてのみ建設されるのです。

あらゆる層の国民が夫々の立場から自らの利益を守る活動の中で、平和擁護の運動をおし進めています。

私達も日常生活上のどんな小さなことでも取りあげ、問題を、全女性・全学生・全青年・全人類のものとしてこれらの人々との協力的な助けを得て、私達の利益を守る為に社会的な意識・能力・地位を高めなければなりません。

この大会は、まだまだ解決されていない沢山の問題を残していますが、婦人であり学生である私達が、共通した条件をもっている女子学生という条件の上に立つて、共に行き悩んでいる問題の解決に力を合わせ、互いの悩みを知り合い、その矛盾の原因をなくしていく出発点となつたのは、大きな成果であると考えます。

集りこそが成功への第一歩です。

女子学生統一の為に、来る十二月初めに開かれる全日本女子学生大会を成功させるために話し合いましょう。

第二回日本婦人大会に私達の問題を訴えましょう。

唇にうたを 心に太陽を そして学園に自由を よりよき未来のために私達は力を合わせましょう。

* * *

全国の皆様へ

全国の皆様、この大会宣言草案を検討していたゞきたいのです。意見をどしどし送つて下さい。文書討論をまきおこしたいと思います。そして、この草案をよりよいものにして、全国大会の席で確認したいと存じます。

関西大会宣言草案委員会

関西女子学生大会についての感想

和歌山大学教育学部 木村真知子さん

私達関西の女子学生が一堂に集つたその結果、いろんな現実でいろんな方法で女性が人間としての妥協以外に既に「女子だから」と云う不当な□□忍耐を強いられている事が分かつたのです。小さくは家庭の中に、

又大きくは既成の社会機構の中に、宗教の鎖【数文字判読不可能】因習に門徒達によつて支えられている女子大学の実相、——こうした封建的な桎梏が未だ執拗に私達の周りに張り巡らされ、しかもこれがそのまゝうまく利用されているのです。しかし私達は、その中からしつかりとスクラム組んで立ち上つている友達の顔を見、更にその腕の中に自分も支えられている事をはつきりと力強く知り得たのです。そうして更に一步、二歩と進むべきことを知りました。封建的な一切の桎梏から□しると共に□たいとなつている重圧を【数文字判読不可能】るべく前進しなければならないのです。【数文字判読不可能】を捨てて私達は今、結ばれ会う必要があるのです。総ての重圧が退けられ、わざわざ女子学生が集まらなければならないような【数文字判読不可能】、実質的な平和と、平等が自分達の手にしつかりと握りしめる迄は——【数文字判読不可能】労働婦人、農村婦人、更に男子と共に横に繋がり、あらゆる苦をのり越えて前進して進みましょう！

この会の運営上の欠陥は別にして、以上の意識「観念的」ではなく、実践的に「自分のもの」として把み得たのが、地方からこの会に参加した私達の大きな成果だつたのです。【一行判読できず】

早稲田大学文学部 水上和子さん

これまで第二の性とまでいわれていた女性が今度の話合に於いてかくも力強く独自性もつて私達自身の方で多く□を話し合う場をもち何かの解決を見出そうとして、集まることができたのは□にこれから私達女性が、平等なる社会生活を営み□□社会の第一線にたち得るのをはつきり証明した。一日目の午前中あらゆるところからメツセージが寄せられどうしてこんなに期待がかけられるのであろうかと私には不可解であつたが、二日間の話し合いの結果、今苦しんでいる問題はあらゆる人々の苦しみを共通のところから来ており、私達の問題はすべての人々と手を携えて解決してゆかなければできないと気付いたとき、今私達が団結していく事の偉大さをはつきりと知つて本当に意義深かつた。たゞ皆が会議に不馴れであつたゝめに運営が思うようにならずに二日目など十時迄のびたとき最後までいた人は半数位となりこの事だけはこれからの会合に大いに配慮しなければいけないと思う。もつと各校の現代を細かく知り尽して又私の問題を十分皆にきいてもらつて解決点を見出したかつたが、あまりにも分科会は短すぎた。今后何回も何回もこのような会合をもつて私達は正しい生活を見出していきたい。

中央大学法学部 大場歌子さん

関西の各校代表二百数十名の女子学生が一堂に会してお互いに苦しみと悩みを語り合いその悩みが、苦しみ、どこに起因してなのか、そしてそれを解決する為はどうしたらよいかを語り合つたこの大会は今までの学生運動史上にして日本の婦人運動史上、前例をみないものでありましょう。このことは現代に生きる私達女子学生がいかに【数文字判読不可能】解決しようとして努力しているかを如実に反映しているものであります。女子学生の私達はじめてもたれた会であるため、いろいろの不十分さはありましたけれどもそれ等をおおいかくすまでの成果を以て終えられたこの関西大会を私は大きく評価するものであります。社会で学校で家庭で身動きの出来ないまでに痛めつけられ、或時は身【数文字判読不可能】までの失望し不安、そして焦りに苦しみ続けてきた私達が一堂に会した時はじめて私はすべての人が一人一人私と同じ悩みに苦しみそれを解決しようと困難を超えていかに努力しているかを知つたのです。そして私は多くの友達身近に感じ孤独感は吹きとばされてしまいました。力強さ！を全身に感じたのです。この同じ悩みに苦しむ人達を団結して行けばどんな悩みも解決出来るという確信に私は力と勇氣を得、明日への限りなく大きい、そして新た

な希望に燃えたのです。同じ悩みに苦しむ人の総てを信じて団結し立上がり行動をおこすことにこそ私達女性を解放する□一の道でありそれ□又平和を愛し平和を切望する人達の列に加わって世界の平和勢力の増大させることであるという確信を得ることが出来たのです。世界婦人大会に、そしてそしていままた開かれようとしている日本婦人大会に於いて全世界全日本の女性が団結して統一して私達女性の権利を守り平和を高らかに叫んで立ち上がっている時「唇に歌を心に太陽をそして学園には自由を」という共通のスローガンに結集して団結こそ統一こそ私達の真の平和□学問の自由をもたらす道であると結論したこの関西女子学生大会は全世界の平和への歩みに大きな力を注いであります！私はこの様な会を東京でも北海道にもそして全日本国の至るところに持ち全日本の津々浦々で一人で悩み苦しんでいる親愛なる女子学生の皆様【後欠】

【会計報告 略】

全日本女子学生の会 第一回全国大会へのよびかけ

全日本女子学生の皆様

来る十二月（二日・三日・四日）に全日本の女子学生が、東京に集って、大会を開くことになりました。この会は、私達女子学生がもっている共通の悩みや、苦しみを解決するために話し合う会合です。この会では、共学の学生も、女子大学のお友達も、短期大学のお友達も、夜学に通うお友達も、洋裁に通うお友達も、みんなが集って、その学校での生活、家庭での生活、社会での生活を話し合い、私達女子学生は、どうすれば悩みを、苦しみを解決し、もつとゆたかな、明い、そして、幸福な生活ができるかを、話し合いたいと思います。十一月六・七の両日には、すでに関西に於いて、全関西の各校代表二百数十名が、一堂に会しました。そこでは、女子学生のもつとも切実な問題である就職や、寮や、設備の問題や、封建制についての問題が出され、多くの女性が、みんな形こそちがえ、特に女だから、とって受ける圧迫や苦しみが、いかに深く、そして大きいものであるかを、心の底から知り、それに対して、私達は、どうしたら解決できるかを、心から話し合い、解決の方向を見出したのです。そして、全関西女子学生の話し合いの中から生まれた、この友情と団結の中で、新たな希望に燃え、強い自信に満ち、勇気をもつて立ち上りつつあります。一人では解決できなかつた、いろいろの問題が多数の力によつて、解決の方向を見出したのです。

全国女子学生の皆様、このような会議が、何回も真剣に開かれ、話し合われば、必ず、私達のもつている困難は少しずつ、解決の方向にむいて行くでしょう。

東京にも、関西にも、すでに、全日本女子学生大会の準備局がおかれ、この大会に向けての準備がなされております。

全国の皆さまも、私達の現実の中に、そして未来に、明るい希望と勇気と自信を見出すために、この大会へ向かつての色々な準備をしようではありませんか。この会合は、私達女子学生一人々々にとつても、とても大切な会合です。大会を成功させるために、次の事をみんなで実行いたしましょう。

- 一、大会までにもう半月しかありません。この大会の呼びかけ状を沢山作つて多くのお友達に拡げてください。新聞やその他のもので宣伝し、集会や催しでこの大会の事を話して沢山の人に参加してもらいましょう。
- 二、親しいお友達は勿論、学内の全てのお友達に、又近所のお友達や同窓生にこの会の話をして、お互いに自分の気持を話し合しましょう。電車の中や通で会った時、朝にも晩にも会う度毎にこの大会の話をし

ましよう。

三、小さなサークルから全学的なものへ、更に大きな地域的会合にまで、この準備会を拡げて下さい。自分達の学園生活の現状を話し合い、どのような事を全国のお友達にきいてほしいか、又どんな事が知りたいか、意見をまとめましよう。更にその集りから代表者を送る運動をしましよう。代表者がきまつたら、みんなの力で代表者を支持しましよう。カンパ活動も積極的に致しましよう。

四、色んな皆さんの学校の様子、寮の様子、就職の状態、生活の断片などを報せて下さい。ニュースを出して全国のお友達と交流しましよう。

又、この会を、少しでも良いものにするために、皆さんの御意見や御批判などをどしどし寄せてください。

昭和二十八年十一月十二日

全日本女子学生の会第一回全国大会準備会事務局

なお、準備会事務局は、関西では、京都市上京区河原町広小路 立命館大学女子部内におき、東京では、未定ですが、定り次第、お報せ致します。